



第1回大岡産業レディースオープン

10月26～28日 / ボウルアロー松原店

川崎由意が新境地で初代女王に

今年新たに誕生した『大岡産業レディースオープン』が、10月26日から3日間、大阪・松原市のボウルアロー松原店を舞台に行われ、プロ85名、アマ5名が参加して熱戦を展開した。それぞれ新人戦のタイトルを持つ3名がTV決勝に進出したが、トップシードの川崎由意（48期・アイキョーボウル/サンブリッジ）が初のレギュラータイトルを手にした。

（主催：（公社）日本プロボウリング協会 特別協賛：（株）大岡産業）



▲終始感情を抑えて投げていた川崎、優勝の瞬間も静かに喜びをかみしめた

▶「全集中」で投げましたと、直前に観た鬼滅の刃にパワーをもらった証言



予選(16G)、準決勝(4G)の20Gトータル上位8名を決勝に選出した。予選を3783の1位で駆け抜けた姫路麗が、準決勝はペースを落としたものの、4609で1位を守った。予選を2位の川崎由意が、姫路に15ピン差に迫る2位、準決勝は1位の959を打った小池沙紀が4535で3位、前戦のクリスタルカップで2位の佐藤まさみが4471で4位、そのクリスタルカップを含む今季3連勝の坂本かやが4462で5位につけたほか、4460で6位の本間由佳梨、4458で7位の岸田有加、4393で8位の中谷優子までが決勝に進んだ。



▲「レーンへの対応が一步遅かった。でも先週ぐらいにつかんだものがあった、それが出せた」と、復活へ手応えの岸田

8名による総当たりラウンドロビンは、1G目に岸田を246:235で下してトップに立った川崎が、その後一度も首位を譲ることなく決勝ステップラダーのトップシードを決めた。2位以下は1Gごとに大きく順位が変動したが、5G目から3連勝の岸田が2位に上がり、4位でポジションマッチを迎えた小池が219:198で佐藤を破り、3番目の座を確保した。

一方で2勝6敗と苦しんだ姫路は6位に後退、坂本も一進一退で7位に終わり、今季開幕戦からの連勝が3でストップした。

TV決勝は、川崎が昨年、小池は2017年、岸田も2011年の新人戦の優勝者であり、しかもいずれもが初のレギュラータイトルがかかるという、興味深い顔ぶれとなった。

3位決定戦

ともに1フレをオープンのスタートのあと、4フレからダブル。小池がさらに8フレまでフィフスと伸ばすと、岸田は6フレのスペアをはさんで7フレからターキーで追走。1マークリードの小池が9フレ、ストライクが切れたために、並ぶチャンス岸田の10フレは「もうちょっと気持ちを込めて投げなければいけなかった」と悔やんだ1投目が9本カウントで、小池が224:215と9ピン差振り切った。



▲2ピン及ばず準Vの小池。素手になってアジャストに苦労していたが「素手でもやれるという自信になった。シード復帰を目指します」

優勝決定戦

小池が3フレのストライクをダブルへつなげて先行。さらに6フレまでフォースとした小池に対し、川崎も4フレからストライクをつなげて追いかけると、ややラッキーなピンアク



▲大岡産業の岡田社長から優勝の賞金パネルを受け取る

ションもあって、8フレまでフィフスと伸ばして逆転。9フレ川崎がやや厚めで④を残し途切れると、小池はファウンデーションをマーク。小池は10フレをパンチアウトでプレッシャーをかけたが、7、8フレの8本カウントが最後まで響いた形で2ピン及ばなかった。しかし「やり切ったので悔いはない」と潔かった。「自信のあった右レーンを10フレに持ってきたこともあって、落ち着いていた」と、見事にパンチアウトで返した川崎が、昨年の

新人戦に続き、レギュラータイトルも手にした。



▲総合14位と健闘した谷口雅美選手（NBF推薦）がベストアマに輝いた

●優勝決定戦

川崎 由意	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	20	38	58	88	118	148	177	197	217	247
小池 沙紀	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8
	19	39	69	99	127	147	165	185	215	245

優勝・川崎由意のコメント

大会のレーンコンディションが発表されてから、自分が所属するアイキョーボウルでもレーンを作って練習をさせてもらった。それよりも本番のレーンの方が易しく感じたし、これって思ったボールもすごく合っていた。だからしっかり準備ができたのが大きかった。また大会の前には何かリフレッシュをすることを決めていたけど、今回は映画館に「鬼滅の刃」を観に行った。前から呼吸法を意識して

いて、その点でもいいヒントをもらった。もともと感情の起伏が激しいタイプだけど、その呼吸法もあってか、すごく冷静に投げることができた。

レギュラーツアーの優勝は、新人戦のときよりも重みが違うと思うけど、あのときもトップで活躍しているプロがたくさんいるなかでの優勝で、自分でもできるんだと、すごく自信になった。あの優勝があったからこそ、今回の優勝があると思う。また素手での優勝という点で



も、今後への自信になる。(優勝ボール: マスターマインド・ZERO・XD)